

カルメル

靈性センターニュース

2023年4月

396号

カルメル 霊性センターニュース 2023年4月 396号

2023年4月号 【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

教皇フランシスコ 使徒的勧告
『キリストは生きている』 277

イエスは、ガリラヤでなされたように、わたしたちの間を歩き回っておられます。わたしたちの通りを歩かれ、立ち止まって、じっくりと、わたしたちの目をご覧になります。このおかたの呼びかけは魅力的で、心を躍らせます。

しかし今日、多くの刺激がわたしたちを攻め立て、そのストレスや急速さによって、わたしたちはイエスのまなざしを受け、その呼びかけに耳を傾ける時間となる内的沈黙のための余裕を失ってしまいます(277)。



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第五十四章 肉と恵みとの相反する働き

4 貪欲と離脱

肉は貪欲で、与えることよりももらうことを喜び、自分だけの持ち物を好む。ところが神の恵みは、他人を愛し、他人に自分のものを分け、目立つことを避け、少しの物で満足し、「受けるよりも与えるほうが幸せだ」(使徒言行録 20・35)と考える。

肉は、被造物と自分の虚栄と娯楽とを好む。ところが神の恵みは、神と徳に向かい、被造物を捨て、世間を離れ、肉欲をいとい、ぼんやりするのをやめ、人前に出るのを好まない。

肉は、感覚の快樂となる世俗の慰めを探し求める。ところが神の恵みは、神にだけ慰めを求め、この世のすべてを超え、最高の善を楽しみとする。

5 無報酬

肉は、何事も自分の利益のためにおこない、無報酬で奉仕するのを嫌がり、おこなったことに相当する、いやそれ以上の利益や称賛や報いを得ようとする。自分のおこないや恩恵が尊重されることを望む。ところが神の恵みは、この世のことは何も求めず、神以外のどのような報いも要求しない。生活する上に必要なものであっても、永遠の報いに役立つものだけを求める。

6 富と地位と知人

肉は多くの友人や知人を持つとうとし、家紋や家柄を誇り、権力者にへつらい、金持ちに追従し、自分に似た者をほめそやす。ところが神の恵みは、敵さえも愛し、多くの友人をもっているも誇らず、より高い徳が伴わないかぎり、家紋や家柄を重視せず、金持ちより貧しい人に好意をもち、権力者よりも市井の人を喜び迎え、偽善者よりも誠実な人と交わり、ますます神の子に似た者となるようにと、徳によって優れた道を歩むように(一コリント 12・31 参照)と人に勧める。肉は、不足なものやわずらわしいことにすぐ不平をもらすが、しかし神の恵みは、根気強く欠乏を耐え忍ぶ。

7 虚栄心を避ける

肉は、自分の利益にすべてを向け、自分のために戦い、自分のために議論する。ところが神の恵みは、みなもとである神にすべてを帰し、善行を一切自分に向けず、うぬぼれて過信せず、争わず、自分の意見が一番すぐれているとは思わず、自分が考え、そして理解することをすべて、永遠の知恵とその判断に従わせる。

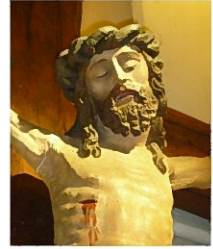
肉は、秘密を探り、新しいことを聞きたがり、外に自分を見せびらかし、多くの感覚的な体験を試み、自分の名声と称賛を上げるようなことに働きかける。しかし神の恵みは、新しいことや珍しいことを無視する。この世で起こることは、過去の出来事の変形にすぎず、真実に新しいこと、永続することはないからである。そこで神の恵みは、感覚を抑え、虚栄心と見せびらかしを避け、称賛と感嘆に値することをへりくだっておおい隠し、すべての知識から、神の光荣と称賛となることだけを求めるべきだと教える。神の恵みは、自分自身、あるいはそこから出るものが、たたえられることを望まず、無償ですべてを与える自分自身、すなわち神の恵みだけが、たたえられることを望む。



聖週間 4月2日～8日

わたしたちが 主のためにどんなに尽くしてみても、
主が私たちを救うためにしてくださったことを知る
なら、とうてい及びもつかないことがわかります。

～テレーズ～



主は仰せのとおり

死者のうちから

復活された。アレルヤ!



復活されたキリストのうち
いのちがみなぎっていることを信じます。
けれども、さらに深く信じさせてください。
死に打ち勝ち「復活されたキリスト」は
いのちの言葉を人々に伝える使命を
わたしたち一人ひとりに託されました…
今日もまた、わたしたちの平凡な生活の中で。

テレーズ列福100年 4月29日

「この小さい福者テレーズは、神から望まれた人で、その使命は
私たちの時代の人々に神の愛を注ぐことのように思われます。

この列福式はその使命の信憑性の証しです。テレーズから受け
たすべての恵みや、私が見聞きした数多くの奇跡のために感謝し
ます。そして、それ以上に未来に起こることへの大いなる希望—
不確かではあっても、ほとんど無限ともいえる希望を示してく
れたことを感謝します。テレーズは、これからもこの世界に、神
の愛の大波を広げてくれると思います。」

～福者マリ＝エウジェンヌ神父～



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（63）

くのり
九里 彰

今回は、リジューの聖テレジアの霊性を取り上げた。彼女の「小さい道」は、まさに「大きくなる」のではなく、「小さくなる」道である。そしてこれが人間の自然性に反していることは、言うまでもない。

というのも、人はこの世に生を受けるやいなや、身体的にも精神的にもそして経済的にも、「大きくなるよう」、一人前となるように、親からも社会からも要請されるからである。しかも、一人前となった終わりではない。どの分野でも、人よりすぐれた業績を残し、傑出した人物となることが求められる。そこでだれもが人より抜きんでようと、日本一、世界一を目指して奮闘することになる。「大きくなろう、大きくなろう」と、熾烈な競争が開始されるわけだが、宗教の世界、霊性の世界も同様であると、多くの人々が捉えるのも無理はない。

だが、これは神を認めない「この世」の、自力の世界での話である。「信仰の世界」に入るということは、心底、神の力を認め、自分の力を含めて一切が神によって支えられていることを受け入れていくことであり、神の前に「小さくなること」ではないだろうか。

パウロは、「誇る者は主を誇れ」と言い（1 コリ 1:31）、こう言っている。

では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。……なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。（ロマ 3:27-28）

パウロも、リジューの聖テレジアも、「自分を誇る」ことから遠く離れていた。それは、神の力を認めず、いまだ自分の力に頼り、自分を誇ろうとする「この世」の次元から、神の限りない愛に身をゆだねてゆく信仰の次元に移っていたからであろう。

「行いによる義」ではなく、「信仰による義」という考えの背景には、偽善的独善的になりがちな律法主義への批判があることは言うまでもない。が、それ以上に「信仰の世界」と「不信仰の世界」の対立があることは見過ごしてはならない。割礼を受ければユダヤ教徒、洗礼を受ければキリスト教徒ということになるが、問題は本当に「信仰の世界」に入ることではないだろうか。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (178)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

フランシスコの情景 (3)

私たちが呼び続けるならば、門番は激怒して外に出て来て、私たちに侮辱し、やっかいなならず者に対するように平手打ちをして、こう言うでしょう。

「ここから出て行け。まったく下劣なこそ泥たちよ。救貧院*に行け。ここではおまえさんたちにあげる食い物などないし、泊まる所もないんだ」。

そして、私たちがこれらを忍耐深く、喜びと愛をもって耐えるなら、おお、レオン修士よ、そこにこそ完全な喜びがあるのだと書きなさい。

*訳注：「救貧院」と訳した語は、”hospital”。現在では、「病院」の意味だけですが、当時は貧しい者を救う施設、施療院、養老院、巡礼者の救護所などを意味していました。

またもし私たちが飢えや寒さや暗闇を余儀なくされて、再び彼を呼び始め、神の愛のため、扉を開き、中に入れてくれるよう泣き叫んで哀願するならば、彼はいらいらしながら、こう言うでしょう。

「なんてこのならず者たちは、しつこいんだ。お前たちを俺のいいようにしてやるぞ」。

彼は節くれだった棒をもって外に出てくると、フードをつかんで、私たちを地面に引き倒し、雪の中に放り出し、棒でなぐり始めるのです。もし私たちが、幸いなるキリストの苦難を思いめぐらしながら、—それを私たちは、彼への愛のために忍ばなければならないのですが—これらすべてのことを忍耐と喜びをもって耐えるならば、おお、レオン修士よ、そこにこそ完全な喜びがあるのだと書きなさい」。

(P. 九里訳)



受難の主日 (A)

(マタイ 27:11-54)

イエス・キリストの十字架の出来事は、神である方が、人間によって裁かれることを引き受けられた出来事として見ることができます。

アダムとエヴァは、善悪の知識の木から取って食べてしまいました。いのちの内に留まり生きて欲しいという神の願い、勧めを誤解し、神に背いて食べた結果、苦しみが生じました。

人は、苦しみを体験した時、それがたとえ自身の自業自得による苦しみであっても、その苦しみゆえに心が乱れ、情緒不安定になり、怒りっぽくなり、自身が体験している苦しみを他者にぶつけたくなります。自身が体験している苦しみを解消するために、その苦しみがどこから来たのか、誰の責任なのか探りを入れ、自分にとって不当の痛みを生じさせているその苦しみの原因が分かれば、その原因の人に、苦しみを解消させるために賠償を要求します。台風や地震の自然災害による場合、例えば木が倒れてその木が人のものを破損させた場合、その木の持ち主が賠償を払わなければならないということが生じます。

しかし、大災害などで誰のせいにも出来ない時があります。そのような時、人は、もし神がいて、このようなことを許すのであれば、そのような神は裁かれなければならない、このようなことを許す神は呪われよと思うことがあります。あるいは、神が愛であれば、この世の中でこんなにも悲惨な出来事が起こるのは何故なのか、このような悲惨な出来事を許す神であれば、そのような神は信じるに値しない。さらには、神はいない、と結論付けて生きる人もいます。

人は、自身が抱えている苦しみ、痛みを、最終的に神に帰そうとします。そのことが、創世記3章12章で表現されています。「あなたがわたしと共にいるようにしてください。わたしたちの女が、木から取って与えたので、食べました」。人は、自身の苦しみを、他者のせいにしてしようともしますが、その大元の責任を神に帰そうとします。

人は、神を裁きたいのです。

十字架の出来事は、このような苦しみと怒りを抱えた人を、どのようにしたら癒すことができるのか、何度も何度も神様が、癒しのわざ、救いの歴史を通して癒そうとした最終的な解決の出来事でした。

十字架の出来事は、本来裁き主であられる神が、人を癒すために、神が人間による裁きを引き受けられた出来事として見る事が出来ます。イエス・キリストは十字架上で、人の苦しみ、痛み、呪いを、私たちが癒されるために引き受けられました。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マタイ 27:46)

(志村武 神父)

復活の主日 (A)

(ヨハネ 20 : 1 - 9)

聖ヨハネの福音は、からの墓というとても重要な物語を語っています。この福音は二つのエピソードを告げています。一つ目は復活の日曜日の朝、マグダラのマリアが墓がからになっているのを発見したことです。二つ目は、ペテロとヨハネが競走して墓を見に行ったことです。

マグダラのマリアとペテロそして愛された弟子は、とてもイエスを愛していました。彼らはイエスの遺体が墓所に置かれたとき、ひどく悲しみ嘆きました。彼らはひどい喪失感を感じ、イエスがいないのをとても寂しく思っていました。愛している人が死んだとき私たちが感じることです。マグダラのマリアは翌日朝早く墓に行ってみると、遺体がそこにはもうないのに気づきました。彼女はペテロと愛された弟子にイエスの遺体がなくなっていると告げました。彼らは自分の目でイエスの墓がからになっているのを見るために急いで競って走って行きました。主への愛が緊急の思いを生じさせたのです。ヨハネとペテロ、そしてマグダラのマリアはご復活についてゆるぎない信念を持ち、このようにしてご復活のメッセンジャーとなります。

イースターは教会における最も重要で荘厳な儀式です。主の復活は救いの歴史において最も偉大な出来事です。「イエスのご復活は、キリストに対する私たちの信仰の中で最上の真理です。最初のキリスト者の共同体によって」、中心的な真理として信じられ生きられた信仰であり、伝統により根本的なものとして伝えられています。ご復活の祭日は、私たち皆が希望、平和、光に満ちた「復活の民である」という栄光に輝くメッセージを与えています。」キリストは死と罪を征服し、キリストにおいて私たちは勝利あるものにされているというよい知らせが与えられています。私たちの生活の全ての出来事の中で復活した主の栄光に輝く現存を体験するように呼ばれています。私たちはご復活のキリストを他者に伝える者となるように呼ばれています。イエスへの私の愛がどれほど深いかをよく考えてみましょう。

親愛な皆さま、「イースター、おめでとうございます。」

キリストは復活されました. Alleluia! Alleluia!! Alleluia!!!

(Sr. Paulina)

復活節 第2主日

(ヨハネ 20 : 19 - 31)

復活節第2主日は、「神のいつくしみの主日」です。私たち一人一人を限りなく愛して下さる「神のいつくしみ」に私たちが心を開き、ともに歩んでゆくことができます様に。

さて今日の福音は、週の初めの日に起こったイエスの復活の状況が描かれています。イエスが十字架につけられ亡くなった後、弟子たちはユダヤ人を恐れ家に閉じこもっていたわけですが、復活したイエスはこの弟子たちにご自身を現して、弟子たちを変えてご自分の使命を告げ知らせるものとなさいます。

イエスは、あなたがたに平和があるようにと重ねて言われ、ご自身の息を弟子たちに吹きかけられ、その平和を与えて下さいました。そして「聖霊」を受ける様にと言われ、聖霊降臨の日に弟子たちは大きな恵みを受けることになります。そして罪を赦すという大きな役割一人を赦すとき神が働かれ罪が赦される一その赦しの道具となってゆきます。

ところでイエスが弟子たちに現れたとき、十一人の弟子の一人であるトマスだけは、その場に居合わせませんでした。他の弟子たちの元に戻ったトマスは、他の弟子たちが

「主を見た」という話を聞いても信じることはできませんでした。

その様な状況の中で、それから8日の後、すなわち「主の日」イエスはそのトマスにお現われになられ、それだけでなくトマスが望んだこと、手に釘の跡を見、指を釘跡に入れ、手をわき腹に入れることをする様に言われました。そして信じていない者ではなく、信じる者になりなさいとトマスに仰ったわけです。

週の初めの日、主の日。私たちは教会に集まり、みことばを聴き、主の食卓を囲んで礼拝を捧げます。弟子たちの前に現れて下さったご復活のイエスの姿は見えませんが、神のことばを聴き、信じる者となってゆければと思います。見たかどうかは重要なことではありません。そうでなく私たちが聞く、神の言葉に耳を傾けることが大切なのです。

イエスは、トマスに語り掛けて下さった言葉を、今、私たちに語り掛けて下さいます。「見ないのに信じる人は、幸いである。」と。主のご復活の喜びのうちに、見えない主を信じ、幸いな者となってゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

復活節 第3主日 (A)

(ルカ24 : 13-35)

今日の福音では、ご復活後にイエスが現れたエマオでの素敵な出来事が描かれています。イエスが聖書に関して説明する場面とパンを裂く場面は、復活した主と出会ってその姿を見出すミサ聖祭を私たちに思い起こさせてくれるはずです。

このエマオのエピソードは、復活した主と弟子たちとの出会いの一つが持つ神学的な重要性を示しています。復活主日に、イエスの二人の弟子は、悲しみと落胆を抱えつつ、これまで起こった一切の出来事について話し合いながらエルサレムから60スタディオン（約11キロ）離れたエマオという村に向かっていました。すると、イエスが近づいて来て一緒に歩き始められました。イエスは、聖書の説明とパンを裂いて渡すことを通じて、ゆっくりとご自分を明らかにされました。弟子たちの目が開け、イエスだと分かった途端、その姿は見えなくなります。しかし、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と弟子たちは語り合い、意気消沈から立ち直って、復活したキリストの現存に満たされました。そして直ちにエルサレムに戻ったのです。エマオに向かっていた二人の弟子たちの人生は、キリストの現存によって見事に変わりました。私たちも挫折や困難そのものにとらわれずにキリストの現存に目を注げば、人生が変わります。

ミサ聖祭のたびに、私たちもキリストに出会います。司祭は、聖霊のインスピレーションを通じて神のみことばを高らかに宣言して説明します。このみことばが私たちの心の琴線に触れることで、キリストの死と復活の救いの神秘に目が開かれるのです。その結果、パンが裂かれる時に、聖体におけるキリストの実存を私たちは認めます。聖体のうちにキリストの体、血、魂、神性が実存することを心に留めておきましょう。そしてミサにあずかる度に、「あなたをもっと親しく見出すために私たちの心の目を開いてください」とご復活の主に願いましょう。

(Sr. Paulina)

復活節 第4主日 (A)

(ヨハネ 10:1-10)

羊の囲いのたとえ、イエスは良い羊飼いの話の福音になります。

この福音箇所を読んだ時、皆さんは何を思うでしょうか。私はイザヤ 1 章 3 節を思い起こします。「牛は飼い主を知り／ろばは主人の飼い葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らず／わたしの民は見分けない」。動物たち、牛やろばは、自分のいのちを生かしてくれている飼い主と、どこに自分のいのちを養う場があるのか知っており、そして、その場に行き食べます。しかし、イスラエルの民に代表されるあなた方は、自分のいのちを本当の意味で生かしてくれている方を知らない。また、いのちを本当に生かすための食べ物の場所を見分けられない。だから、その場に行けない。

私たちは、自分のいのちが本当に輝く場、喜べる場、幸せを感じられる場を見つければ、自ずとその場に出向きます。それだけでなく、その価値を知っていれば、お金を払ってでも出向きます。さらには、その場こそが自分の幸せが満たされる場だと知れば、全財産をはたいてでも出向きます。

それが出来ていないということは、私たちは、未だに、自分を本当に幸せにしてくれる方に出会っていないということです。私たちは洗礼を受け、キリストを信じる者になりました。しかし、この生ぬるさは何なのでしょう。私たちは未だに、キリストを知らないのです。

人は、生まれた時から幸せになることを求めて生きています。そして、その幸せが永遠に続いて欲しいと思いながら、何とかして死なないように、生きられるように戦いながら生きています。皆、幸せになりたいのです。しかし、人は幸せへの道が見出せていません。幸せを求めて、お金、権力、快樂を追求しますが、それだけを求めて他者の尊厳を、他者のいのちを蔑ろにすれば孤独に陥り幸せになれません。いのちの輝きを真に生きられるようにもがいていますが、間違った方向に行ってしまいます。

そのような私たちにイエス・キリストは切実に語り掛けています。

「わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」(ヨハネ 10:9,10)

(志村武 神父)

糸巻き棒からペンへ(85)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

このことのために、私はとても苦しみました。というのも、私が祈りの中で心が散漫になっているなら、それはほんものではないと、人々は私に言っていたからです。けれども散漫は、主がそれをなくしてくださる最後の住居においてのみ完全に消えるのであって、それまではそうではないということ、私は経験によって知りました。ですからそのことをあまりにも重視したり、平和が奪われないようにと必死になる必要はないのです。また私たちがあらゆる思いをコントロールできないときにも、祈りをやめるべきではないのです。それらは罪によって傷ついた私たちの人間性の弱さから来るのですから、解決策は、忍耐をもってそれらに耐えることです。想像力によるさまざまな思いは、私たちの惨めな本性からくるもので、それらをコントロールできないときも、心を騒がせたり、嘆き悲しんではならないのです。重要なことは、すべてにおいて神をよろこばせることを、私たちに弱さがあるとしても、根気よく探し続けることです。

祈りの段階

祈りは、一つの技術です。それによって、全生涯を通じて自分をまったき者とすることができるのです。いつも同じような仕方で祈らなければならないと考える必要はありません。そうではなく、常にますますよくなるよう祈りの道を進んでいくべきです。

このことを説明するために、ひとつのたとえを用いたいと思います。祈りを始める者は、石や雑草がいっぱいの荒れ果てた土地に菜園を造ろうとする人の方であると考える必要はありません。神の助けによって、よい園丁のように、私たちの罪に他ならない石や雑草を心から取り除き、諸徳である良い草を植えるように努めねばなりません。私たちは、それらの植物が成長するように、またそれらが枯れないために絶えず水をやるよう心がけなければなりません。

(P.九里訳)

いのちの言葉 4月

上にあるものに心を留め、
地上のものに心を引かれないようにしなさい。 1
(コロサイの信徒への手紙 3・2)

コロサイでは、最初のキリスト者共同体が生まれたばかりの頃、福音のメッセージの誤った解釈のために、すでに対立が生じ始めていました。獄中にあったパウロはこうした問題を知って、かの地の共同体に向けて手紙を書きました。今月の「いのちの言葉」は、この手紙の文脈の中で読むとよりよく理解できるでしょう。

「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」 2

対立を克服するために、パウロは私たちの思いと全存在を、復活されたキリストに向けるようにと招いています。事実、洗礼によって私たちもまた、キリストの内に死んで復活したのですから、「すでに起こり、しかしまだ実現していない」現実に生きることができるのです。

上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。

当然ながら、この死と復活の現実を生きることができるかどうかは、一度生きられれば、ずっと生き続けられるというものではなく、生涯続く険しい道のりの中で求め続けねばなりません。それは、自分の人生を「上に」向けて生きingことを意味します。キリストは天のいのちを地上にもたらし、(キリストの)復活は新しい創造、新しい人間性の始まりです。これは、福音を生きingことを選択した人たちにとって、当然行き着くところなのです。なぜなら、この選択は、私たちのメンタリティを完全に換え、世が提唱する秩序や目的を覆すものです。この選択によって、私たち自身は徹底的な変化を体験し、束縛から解放されるのです。またパウロは、「地上のもの」に価値を与えないというわけではありません。なぜなら、神の子の受肉によって天が地に触れ、そのときからすべて(の地上のもの)は新しくされたからです。 3

上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。

「さて、『上にあるもの』とは、何でしょうか」とキアラ・ルービックは書いています。「それは、イエスが地上にもたらされた価値観であり、イエスに従う者を区別するしるしです。すなわち、愛、一致、平和、赦し、正しさ、清さ、正直、正義などです。これらはすべて、福音が私たちに与えてくれる徳であり、豊かさです。これら(の『上にあるもの』)を求め、勝ち得ていくことによって、

キリスト者は、キリストと共に復活した生き方を続けていくことができるのです。
…

世のただ中に生きつつ、心の錨(いかり)を天に下ろし続けるためには、どうすればよいでしょうか。それには、イエスの思いと心にならって生きることが必要です。イエスの心の眼差しは、常に御父の方を向いており、その生き方は、愛という天の法則を毎瞬間映し出すものでした。」⁴

上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。

世のただ中にあって、勇気をもって生きるキリスト者の存在は、復活の新たな命へといざないます。このキリスト者たちは、世に属していなくとも⁵、あらゆる困難を抱えるこの世で生きる、新たにされた女性、男性なのです。初期のキリスト者たちについて書かれたことが思い出されます。「キリスト者たちは地上に住んでいるが、国籍は天にある。… 魂が肉体の中にあるように、彼らもまたこの世にいるのである。」⁶

ある経験をご紹介します。一人の労働者が、勇気を出してまさに福音的な決心で、解雇された同僚を助けようとしてしました。果たしてこの証しは、きょうだい愛の連鎖を引き起こしたのです。

「ある日、工場で大量解雇の通知書が配られ、ジョルジョに宛てたものもありました。彼が経済的に苦しいことを知っていたので、声をかけて一緒に人事部に行きました。私は、『自分の妻は仕事があるので、彼より恵まれています。だから代わりに私を解雇してください』と伝えました。責任者は検討することを約束しました。オフィスを出るとジョルジョは感動のあまりハグをしてくれました。当然ながら、この一件は口から口へと伝わり、私と同じような境遇の他の二人の労働者が、他の解雇された二人の代わりに解雇されることを申し出ました。経営陣は人員整理の方法を見直さざるを得なくなりました。この話を聞いた私の教会の神父さんは、日曜日のお説教の中で、名前を伏せてこのことを話しました。翌日、二人の女子学生が、困っている労働者のためにと、自分たちの貯金を全部持ってきて、『私たちもあの労働者の行いを真似したいのです』と言ったのでした。」(B.S. - ブラジル)⁷

パトリツィア・マツォーラと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 日本聖書協会『聖書 新共同訳』

2 コロサイ 3・1-3

3 ニコリント 5・17 参照「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」

4 キアラ・ルービック 「いのちの言葉」(2001年4月)

5 ヨハネ 15・18-21 参照

6 「ディオグネトゥスへの手紙」5・5-6, 1 「I Padri Apostolici」(教父たち) A. クアクアレリ著、チッタノーバ社、ローマ 2001年 pp.356-357

7 www.focolare.org 掲載の体験より

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年2月24日

全てのテレジア的カルメル宛、跣足カルメル修道会、
跣足カルメル在世会、カルメルのファミリーの皆様へ



「主よ、ウクライナに平和をお与えください。」

明日2月24日は、ウクライナでの戦争が始まってから1年になる日です。それは、まさに戦争の不条理、恐怖、狂気、そして独裁的裁量の年でした。

そこには多くの怒りと驚愕、多くの憤慨、多くの被害者たちの涙があり、この戦争の到底理解できない邪道の戦力を語り尽くすために、多くの言葉は要りません。それはウクライナへの侵攻とすべての戦争に対してです。当初、戦争が勃発した直後、私は跣足カルメル会の全員に向けて、心を尽くし、全力を尽くして、共に祈るように呼びかけました。

今日、私はイラクから、創世記の地、神の創造の地、神が創造を見てすべてを良しとされた地から皆さんにこの手紙を書いています。ここは、神の約束が成就するというすべての希望により頼み、信じた、私たちの「信仰の父」であるアブラハムの地です。

今日、私は全てのカルメル宛に、「不屈の希望のために」祈り、平和が到来し私たちの嘆願がウクライナの兄弟姉妹とともにあると信じるよう、お願いします。戦争の恐ろしさが私たちの熱心な祈りを麻痺させないように、爆弾が私たち自身の家族、子供、兄弟、友人に落ちていると感じて祈りましょう。目と耳を覆わずに祈りましょう。そして、平和のうちに「すべての希望により頼み」信仰の剣を持ち、復讐の武装をせずに行いましょう。

聖霊降臨のあの高間で、弟子たちがまだ恐れていてドアを閉めていたときのように、聖母マリアと共に座るよう勧めます。カルメルの家族として、ランプを灯し、賛美の礼拝やロザリオを手に、あるいは一致の沈黙の中で主の前に身を置くことをお勧めします。

平和の元后聖母マリアよ、戦争を終結させ、私たちの兄弟姉妹、あなたの子どもたちに平和をお与えください。

ミゲル・マルケス・カレ神父、OCD
OCDS総長代理

(訳・注：小宮山延子)

カルメル誌 新刊案内



2023年 春号 No.388

《共に歩むーパンデミックの世界の中で》
アビラの聖テレジアとシノダリティの一考察

松田浩一

カルメルの外のカルメル

ー教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ

鶴岡賀雄

苦しみの秘儀ーパスカルの

「病の善用を神に求める祈り」

釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の靈性(1)

ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の靈は導く(5)

ーテレーズ生誕(1873~1897)ー五〇周年を迎えて
伊従信子

風に吹かれて再び(3)

ー私のなかにキリストは生きているか

原 造

世界遺産、シャルトリューズ修道院の生活

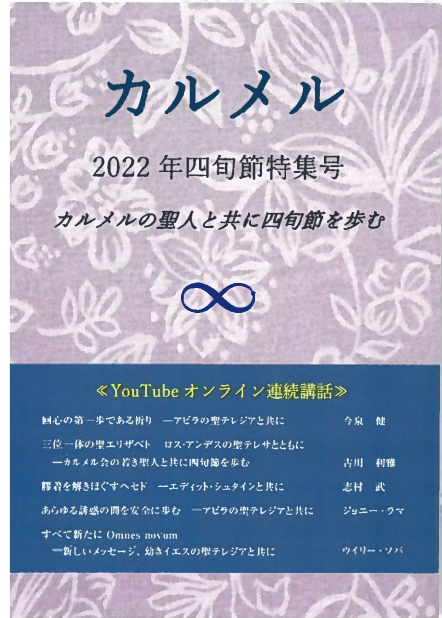
森 みさ

平和への道(1)

九里 彰

靈的研究会講義録(19)ー聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

ーアビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

ーカルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすへセド

ーエディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

ーアビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

ー新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に
ウィリー・ソバ

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN：9784907991807

発売/発行年月：2022 年 3 月

判型：A5

ページ数：184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

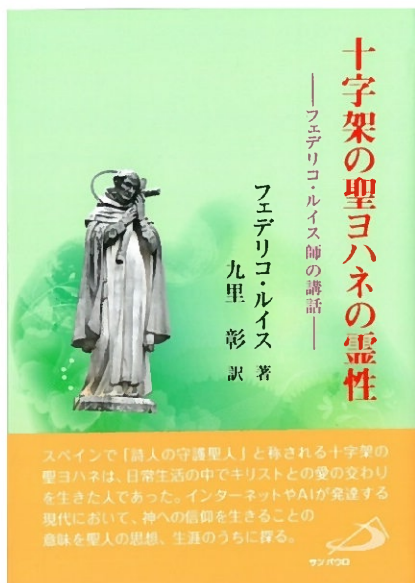
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通曉した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

第1章 誓 愿(1)

第2章 誓 愿(2)

第3章 理性対神秘主義

第4章 神秘主義と愛

第5章 東方のキリスト教

第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対 話

第7章 科学と神秘神学

第8章 修徳主義とアジア

第9章 神秘主義と根源的なキリスト

第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

第11章 信仰の旅

第12章 浄化の道

第13章 暗 夜

第14章 (愛のうちにある)

第15章 花嫁と花婿

第16章 一 致

第17章 英 知

第18章 活 動

第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。
 イエズス会に入会し、26歳で来日。
 32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を聖智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

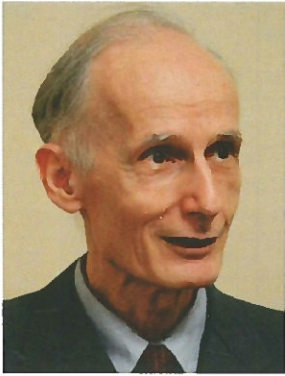
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

11月18日～19日

7月8日～9日

2024年

9月23日～24日

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

2023年 4月19日 5月17日 6月21日 7月19日

9月20日 10月11日 11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付) 志村武神父

2023年 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日

2024年 1月11日 3月7日

- ・一泊黙想会(土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年 11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月1日～2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

8月1日(火)～10日(木)

12月27日(水)～1月5日(金)

- ・ 青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
2023年 5月13日(土)～14日(日)
2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・ 召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)
カルメル会士
2023年 4月22日(土)～23日(日)
7月22日(土)～23日(日)
10月28日(土)～29日(日)
2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・ 特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ト・ヴァイ)
2023年 6月16日(金)～18日(日)
11月3日(金)～5日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

2023年 カルメル会 四旬節講話シリーズ

(テーマ)「現代、宗教を生きる事の意味：
カルメル会からの提言—— カルトと宗教……——」

会場:カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院(Tel.03-3704-2171)

日時:下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料/予約不要です(講話後、主日のミサ)

≪YouTubeでも無料配信いたします≫※講話が行われた二日後からご視聴いただけます。
「カルメル会 四旬節講話シリーズ」で検索

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

第1回 2月26日 「自分の心の中——心の深い深いいちばんの奥底に……」
……アビラの聖テレジアの宗教性……
中川博道(カルメル会士)

第2回 3月5日 「人間学としての精神医学」
濱田秀伯(六番町メンタルクリニック・精神療法センター長)

第3回 3月12日 「人間となる道 ——十字架の聖ヨハネの教えと生涯——」
九里彰(カルメル会士)

第4回 3月19日 「神との出会いの喜び
——教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて」
松田浩一(カルメル会士)

第5回 3月26日 「幼きイエスの聖テレジアの宗教性」
大瀬高司(カルメル会士)

お問い合わせ:「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

*毎月第三水曜日（8月はお休み）

*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2023年度開催予定日（2023年3月～2024年3月）>

2023年 3月15日~~終了~~ 4月19日 5月17日
6月21日 7月19日 9月20日 10月11日
11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

*当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2023年4月～)

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

5月20日～21日 7月22日～23日 9月2日～3日 11月25日～26日
2024年
1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

5月27日 7月1日 9月30日 12月16日
2024年
2月3日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

4月26日 5月24日 6月28日 7月26日 9月20日 11月8日 12月13日
2024年
1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの霊性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父

カルメル山の聖母 7月14日～15日
幼き聖テレジア 9月22日～23日
アピラの聖テレジア 10月13日～14日
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

4月13日 6月1日 7月6日 9月14日
10月5日 11月2日 12月7日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

5月23日 6月27日

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般可

8/1（火）～10（木） 中川博道神父
11/12（日）～21（火） 中川博道神父
12/27（水）～1/5（金） 中川博道神父
2024年
3/4（月）～13（水） 中川博道神父

新企画

【男性のための黙想会】 中川博道神父

5月13日（土）～14日（日）
11月22日（水）～23日（木）…22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

4月13日 6月1日 7月6日 9月14日

10月5日 11月2日 12月7日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

5月23日 6月27日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2023年 — 祈りの集いのご案内

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
- 8月 休み
- 9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門 A	4/23(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel:090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
那須リピーター の会	4/28(金)9:00- 4/30(日)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会 ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	同上
ダイアリー	5/3(水・祝)17:30- 5/7(日)16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区)	同上
名古屋入門 A	5/14(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナ I	5/18(木)17:30- 5/21(日)16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区)	来間(くるま) 裕美子※
入門 B	5/28(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	同上
沖縄 フォローアップ	6/1(木)9:00- 6/2(金)18:00	同上	沖縄県内施設 (申し込み受付にお問 合せください)	佐藤芳樹 Tel:080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 I & アト・ハンス	6/3(土)9:00- 6/4(日)18:00	同上		
名古屋入門 B	6/11(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。
- 入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2023年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

† 主のご復活祭おめでとうございます。

コロナパンデミックの終息が取りざたされる中、春の息吹と共に、わたしたちの主イエス・キリストの死からの復活を祝います。

旅路にあって混乱しながら語っていると、イエスが姿を現されて「一緒に歩き始められた」（ルカ 24・15）エマオの弟子たちのように、この混乱する時代をイエスと共に歩むことができますように。

《お知らせ》 …編集担当者が変わります…

5月号からは、中川から志村武神父が担当することとなります。私が編集を担当させていただいた2019年6月以降、ご愛読くださった皆様に心より感謝申し上げます。

この4年間は、「コロナパンデミック」に覆われる日々でした。そして、ウクライナはじめ、様々なことが起こり未解決のままつづきます。かつて誰も経験したことのない時代の混乱の中で、イエスと共に生きる道を、教会と共に模索したいと思ってまいりました。今、あらためてこの役割を終えるにあたり、ヘンリー・ナウエンの『愛されている者の生活』の一説が浮かんできます。

私の言いたいことをすべて読み終わったのち、もっとも覚えておいて欲しい言葉は何だろうということです。…それは、「愛されている」という言葉です。私はこの言葉こそ、あなたやあなたの友人たちのために、私が語るべきことだと確信するようになりました。…

「わたしの愛する子」という言葉は、人がどんな特定の宗教的伝統に属しようとして、すべての人間に最も密接した真理を明らかにしている、という確信に私は導かれました。

私がおあなたに言いたいことは、「あなたは愛されています」という一言に尽きます。私のもっとも願っていることは、愛のみが持つやさしさと力強さに満ちたこの語りかけを、あなたが聞き取れますように、ということです。私のただ一つの願いは、この言葉が、あなたの存在のあらゆる隅々にまで響き渡りますように、ということです。——「あなたは、愛されています」

皆様のご購読に感謝しております。また、多くの皆様のご投稿に感謝いたします。最後にこの間、校正、印刷、発送を一手に引き受けてくださった事務局の大保ゆり子さんの働きは甚大でした。あらためて感謝しております。

志村武神父の編集による『霊性センターニュース』をこれからもよろしく願いいたします。祈りつつ

Fr. 中川博道 o. c. d.

